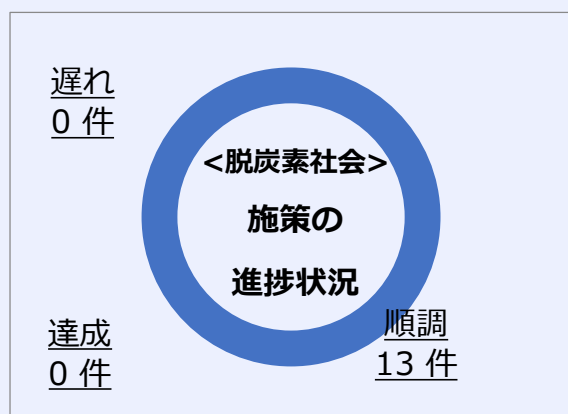


脱炭素社会

【2023（令和5）年度の進捗状況】



※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に
取り組む必要があるもの
※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会
で意見や提案等を受けています。

<施策の進捗状況>

- ・13の施策は、13件が順調の評価。
- ・成果指標は9項目中、全てが順調に推移。
- ・まちの状態指標は概ね目指す方向性に向かって順調に進んでいる。
- ・「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合については、近年の夏の猛暑などを捉えて、対策が進んでいない、満足していないと感じている及び地球温暖化に対する市民の意識が高くなったことが満足度の低下につながったなどの意見が出された。
- ・市域から排出されるCO₂排出量については、2030年の目標を達成するためには上乗せの施策が必要。

Vision 【2025年への「めざす姿」】（このような姿に近づいていますか？）

- ・再生可能エネルギーの普及が進み、まち全体としてエネルギー利用の効率化が進んでいる
- ・脱炭素型の暮らしが定着し、脱炭素型の交通システムやものづくりの基盤が確立している
- ・人工林の間伐が進み、森林によるCO₂吸収量が増加している
- ・気候変動への適応の認知度が高まり、取組が進んでいる
- ・環境モデル都市として先進技術やインフラが普及し、取組が浸透している

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
再生可能エネルギー導入率	29%（2023年度）	↑
市内のCO ₂ 排出量※	270万t-CO ₂ （2021年度）	↓
森林によるCO ₂ 吸収量	15.5万t-CO ₂ （2021年度）	↑
「気候変動への適応」の言葉を知っていて、積極的に取組を行っている市民の割合（※2022年度から変更）	32.5%（2020年度）	↑
「地球温暖化対策に取り組むまち」として満足している市民の割合	29.6%（2023年度）	↑

※環境基本計画策定（2018年3月）以降に算定方法の変更あり

Pick Up 気候変動アクション環境大臣表彰

(環境政策課)

豊田市が参画している『世界首長誓約／日本』の取組が評価され、先進導入・積極実践部門緩和・適応分野で 2023 年度気候変動アクション環境大臣表彰を受賞しました。今回の受賞は事務局と誓約自治体との共同受賞で、具体的な「行動計画」を策定したうえで CO₂排出量を含む実施状況を 2 年ごとに報告する、といった首長誓約の仕組み自体が評価されたほか、誓約自治体が一律に同じことをするのではなく、地域の特性にあった方法で気候変動問題の解決に向け取り組んでいる点、自治体の首長が誓約をし、地域が主役となり地域から脱炭素社会を目指し行動している点が大きく評価されました。



Pick Up 脱炭素社会推進事業「New VibeZ」

(未来都市推進課)

2050 年のゼロカーボンシティの実現に向けて、次代を担う若い世代に脱炭素化について考え、行動を起こしてもらえるよう、産学官民の連携によるプロモーション事業「New VibeZ（ニューバイブズ）」を 6 月 24 日（土）から始動しました。

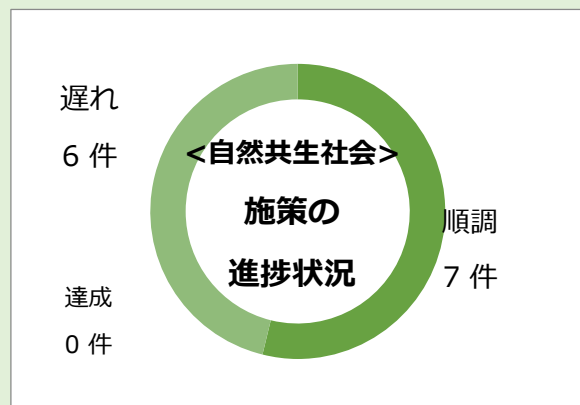
当事業は「資源循環」をテーマに、若い世代の関心が高い「衣服」に着目した様々な取組を行うとともに、大学生等が中心となり企業等の協力を得ながら、同世代の「共感」を生み出すための実践・情報発信をしていくものです。

2024 年 3 月 2 日には、東京都で開催されるファッションフェスタ「第 38 回 マイナビ 東京ガールズコレクション 2024 SPRING/SUMMER」のステージを活用し、本市の取組や大学生等が同世代へ脱炭素の意識を広げるために考案した、FIA 世界ラリー選手権フォーラムエイト・ラリージャパンの公式グッズなどを紹介しました。



自然共生社会

【2023（令和5）年度の進捗状況】



※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
 「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
 「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に
 取り組む必要があるもの
 ※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会
 で意見や提案等を受けています。

<施策の進捗状況>

- ・13の施策のうち水や緑とのふれあい空間の形成や環境教育・環境学習の充実など7件が順調の評価。
- ・体験型自然観察会や自然環境調査の充実など6施策は、計画どおり事業を実施したが、成果指標が目標より下回ったため遅れとした。
- ・市民参加型調査を推進するため、活動の成果をわかりやすくPRするなど、展開の方法に工夫が必要などの意見があった。

Vision 【2025年への「めざす姿」】（このような姿に近づいていますか？）

- ・豊かな自然とふれあう機会を創出し、多くの市民が利用している
- ・生物多様性の状況を把握し、その結果が施策へ反映されている
- ・市民による保全活動が促進され、連携が進んでいる
- ・開発行為に対する適切な監視や指導がされている
- ・企業による生物多様性保全に関するCSR活動が活発化している
- ・多面的機能を持つ農地が保全され、生態系に配慮した営農がされている

Goal 【まちの状態指標】

標名	現状値（把握年度）	目指す方向
「自然とふれあえる場の多さ」として満足している市民の割合	53.6%（2020年度）	↑
生物多様性を理解している市民の割合	35.0%（2020年度）	↑
① 希少野生動植物種 ② 特定外来生物 が豊田市にも生息・生育していることを知っている市民の割合	①38.6%（2020年度） ②74.0%（2020年度）	↑
生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合	10.2%（2020年度）	↑
市内で確認された希少種の種数	536種（2022年度）	→
健全化に向かっている人工林の割合	81.9%（2023年度）	↑
「公園や緑地が身近にあるまち」として満足している市民の割合	55.0%（2023年度）	↑
生物多様性保全活動に取り組む企業の割合	14.6%（2020年度）	↑

Pick Up 環境保全活動に取り組む団体への表彰

(環境政策課)

豊田市では、日頃地域における環境保全活動に尽力されている団体・個人について、国や県が実施する表彰に積極的に推薦しています。表彰実績は以下のとおりです。

■環境省 地域環境美化功績者表彰 上高湿地を守る会

功績概要 ラムサール条約登録湿地である上高湿地を守るため、10年以上にわたり草刈りや外来生物駆除などの保全活動を継続。また、地元小学校での湿地学習の講師を務めるなど、湿地の普及啓発活動にも貢献。2021年度には、愛知県環境保全関係功労者表彰（環境保全活動功労）を受賞。



市長表敬の様子（上高湿地を守る会）

■愛知県 環境保全関係功労者表彰 さなげ台愛護会

功績概要 亀首湿地を守るため、10年以上にわたり草刈りや外来生物の駆除などの保全活動を継続。これにより、希少な植物が生育する環境を維持している。



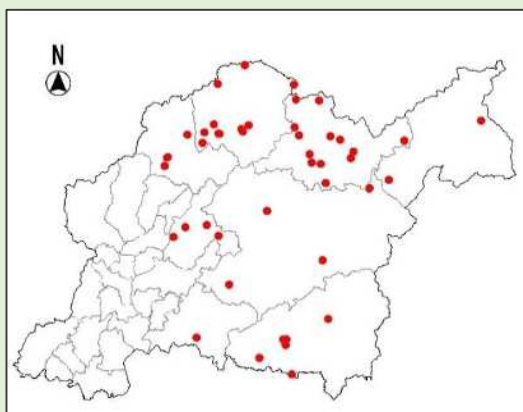
表彰式の様子（さなげ台愛護会）

Pick Up ツキノワグマの出没が増加しています

(環境政策課)

豊田市内において、ツキノワグマの出没が増加しています。令和5年度は、山間部を中心に45件の出没がありました（クマらしき動物の目撃を含む）。

クマによる事故を防ぐために、山ではクマ鈴などの音の出るものを携帯したり、家の周りのカキやクリなどの果樹を早めに収穫したりするなど、クマとの遭遇を防ぐ対策を行いましょう。



令和5年度クマ出沒地点



市内の山中で撮影されたツキノワグマ

循環型社会

【2023（令和5）年度の進捗状況】



※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に
取り組む必要があるもの

※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会
で意見や提案等を受けています。

＜施策の進捗状況＞

- ・ 11 の施策は、11 件が順調の評価。
- ・ 市民一人当たりのごみ排出量が減少している。
- ・ 事業系可燃ごみが減少している。
- ・ ダンボールコンポストモニター登録者数、リユース工房利用者数が増加している。
- ・ ごみ分別アプリのダウンロード数が増加している。
- ・ ごみ処理 1 t 当たりの発電量、焼却施設の稼働率が目標値を上回っている。
- ・ 不法投棄パトロール隊の団体数が増加している。
- ・ 廃棄物の不適正処理現場の監視ができています。

Vision 【2025 年への「めざす姿」】（このような姿に近づいていますか？）

- ・ 廃棄物の発生抑制が進んでいる
- ・ 廃棄物の再使用・再生利用が進んでいる
- ・ 廃棄物の適正処理が進んでいる
- ・ 安心できるごみ処理体制が確保されている

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
市民一人当たりのごみの排出量	498 g（2023 年度）	↓
事業系可燃ごみの排出量	28,351 t（2023 年度）	↓
廃棄物の不適正処理現場の数	99 か所（2023 年度）	↓
最終処分場の容量確保	45,199m ³ （2023 年度）	↑
施設の稼働率	60%（2023 年度）	→

Pick Up リユーススポットの開設

(循環型社会推進課)

2023 年 11 月 5 日に、豊田市の清掃施設へ搬入されたごみや粗大ごみとして排出された家庭ごみを簡易清掃し、展示、譲渡する施設「リユーススポット」を渡刈クリーンセンター内に開設しました。

豊田市の清掃施設等に持ち込まれる家庭ごみの中には、まだ使用できるものが多く含まれており、ごみの減量を目的として、必要とする人へ譲渡する取組です。



Pick Up カバン型コンポスト貸与

(循環型社会推進課)

2023 年 4 月からごみの減量と資源の循環を図るため、家庭から発生する生ごみを堆肥化する、生ごみ堆肥化容器を貸与しています。

“手軽に循環型ライフスタイル”を体験してもらうべく、貸与を推進しています。



カバン型コンポスト



コンポストの使用している様子

Pick Up 食品ロス削減に向けた「とよたタバスケ」

(循環型社会推進課)

2023 年 12 月 1 日から市内の飲食店等から発生する食品ロス削減を目的としたマッチングサービス「とよたタバスケ」を開始しました。

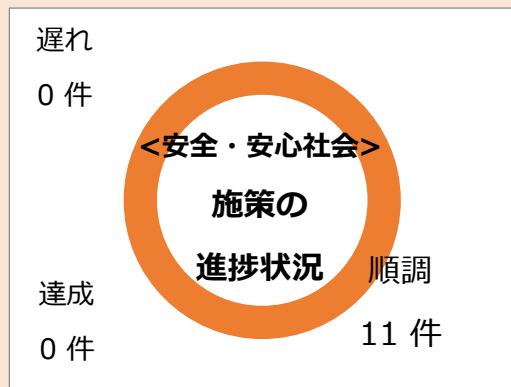
アプリ版もブラウザ版もあり、インターネットを利用できる環境であれば、誰でも無料で利用することができます。

お店（協力店）が、消費期限・賞味期限が近い食品、規格外野菜など、廃棄になりそうな商品をウェブサイトに出品し、消費者（ユーザー）はパソコンやスマホから出品された商品を見て、気に入ったものをお得に購入できます。

食品ロス削減と家計負担軽減につながる新しい取組です。



【2023（令和5）年度の進捗状況】



※「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
 「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
 「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの

※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会
 で意見や提案等を受けています。

＜施策の進捗状況＞

- ・ 11 の施策は、全て順調の評価。
- ・ 成果指標は、全て順調の評価
- ・ 審議会では、施策の柱 4.2「良好な生活環境の形成」について、たばこやごみのポイ捨て等の対策を強化してほしいという意見や、施策の柱 4.3「気候変動や自然災害による環境影響の低減・回避」について、今後、市内で発生していない災害が発生した場合は、アンケートの結果に影響することが想定されるため、対象範囲の明確化が必要等の意見が出された。

Vision 【2025 年への「めざす姿」】（このような姿に近づいていますか？）

- ・ 生活環境が保全され、快適に暮らせている
- ・ 災害に強いまちづくりが進んでいる

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
周辺環境への満足度（全体）	66.6%（2020 年度）	↑
「気候変動への適応」の言葉を知っていて、積極的に取組を行っている市民の割合（※2022 年度から変更）	26.0%（2020 年度）	↑

Pick Up 熱中症予防の推進に向けて市内施設を「クーリングシェルター」として活用（環境政策課）

熱中症予防を推進するため、国の改正気候変動適応法の施行（2024 年度予定）に先行して、一部の市内施設等を一時的に暑熱から避難し、涼める場所である「クーリングシェルター」に位置付け、市民に利用を呼びかけました。

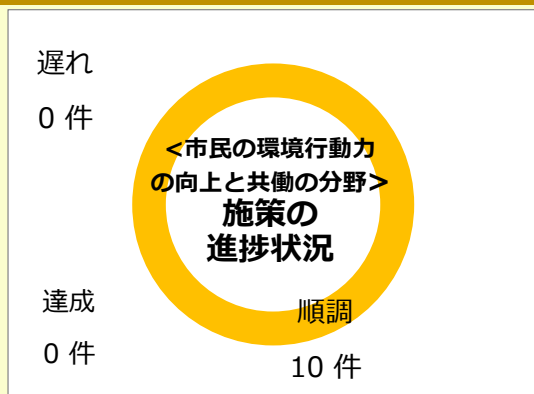
対象施設は、市役所本庁舎、各支所・交流館、スーパー等 63 か所。対象施設ではポスターやのぼり旗を設置しクーリングシェルターであることを周知し、熱中症予防の啓発ちらし及び塩分タブレット等のグッズを配布しました。





市民の環境行動力の向上と共働の分野

【2023（令和5）年度の進捗状況】



<施策の進捗状況>

- ・ 10 の施策は、全て順調の評価。
 - ・ 成果指標は、全て順調の評価
- ※ 施策には、他分野と重複する項目も含まれています。
- ・ 審議会では、施策の柱 5.1「学習機会・知識の提供」について、脱炭素や生物多様性の問題に興味を持ってもらうための施策が必要、環境学習は様々な世代を対象とし、大人への働きかけを反映した指標の必要性等の意見が出された。

※ 「達成」：施策の当初の目標を達成しているもの
 「順調」：現状のペースで今後も取組を進めていくもの
 「遅れ」：ペースを加速又は他の施策に比べ重点的に取り組む必要があるもの

※ 進捗状況を評価するに当たり毎年度、豊田市環境審議会
 で意見や提案等を受けています。

Vision 【2025 年への「めざす姿」】（このような姿に近づいていますか？）

- ・ 充実した環境学習施設を拠点に、様々な世代へ適切な環境情報・学習の場が提供されている
- ・ 学んだ知識を活かして、環境配慮行動を実践する市民が増えている
- ・ 多様な暮らし方を認め、理想の暮らしを実現している
- ・ 多くの市民・事業者が、自発的に環境行動を実践し、活動成果を共有している
- ・ 特徴的な取組が市内外へ発信されている ・ 市が率先して環境配慮行動を実践している

Goal 【まちの状態指標】

指標名	現状値（把握年度）	目指す方向
「市民や企業が環境に配慮しているまち」として満足している市民の割合	48.6%（2019 年度）	↑
環境配慮行動を実践している市民の割合	76.3%（2020 年度）	↑
環境に関連する取組を行っている事業所の割合	30.6%（2020 年度）	↑
豊田市や住んでいる地域に対して愛着を感じている市民の割合	79.6%（2019 年度）	↑

Pick Up 豊田市 SDGs 認証制度

（未来都市推進課）

2030 年の SDGs 達成に向け、地域事業者のさらなる具体的な行動を促進するため、市・豊田商工会議所・豊田信用金庫の3者による連携事業として、「豊田市 SDGs 認証制度」の運用を開始しました。

認証を受けた事業者は、認証等級別に補助金の上乗せ交付などの特典を受けられるほか、豊田信用金庫による経営相談などにより、SDGs への取組をさらに推進することができます。



★豊田市環境基本計画成果指標一覧（主要データ）

社会・分野	指標名	2023 年度実績	最終目標 (2025 年度)
脱炭素社会	再生可能エネルギーの総発電量（市導入・関与分）	122,112kW	119,500kW
	スマートハウス支援件数（累計）新築及び既築	1,803 件	2,000 件
	スマートハウス支援件数のうち、新築 ZEH（スマート・ゼロハウス）（累計）	239 件	280 件
	新車販売台数に占める次世代自動車の割合	50.5%	50%
	公共施設の LED 化実施割合	45.9%	50%
	中小企業向け脱炭素スクール修了事業者数（累計）	63 者	100 者
	人工林の間伐実施面積(年間) ※公有林等を除く	866ha	1,200ha
	適応策推進事業への延べ参加者数（累計）	841 人	1,200 人
	環境に関する先進技術実証事業の件数	5 件	毎年度 3 件以上
自然共生社会	豊田市自然観察の森における講座等の受講者数	4,382 人	5,500 人
	新たに整備された水辺や緑地等のふれあい空間の箇所数	2 か所	3 か所 (2022~2025 年)
	環境学習施設を利用した小学生の生物多様性の理解度	95.6%	80%以上
	サイエンスミュージアムネットに登録された標本の数（累計）	27,750 件	40,000 件
	市民参加生き物調査における一般参加者数	566 人	1,700 人
	生物多様性保全に関する活動団体数	36 団体	35 団体
	人工林の間伐実施面積(年間) ※公有林等を除く	866ha	1,200ha
	みどりのまちづくり推進事業補助金による緑地整備面積	949 m ²	3,200m ² (2021~2024 年度)
	自然共生に関する企業と地域・市民活動団体とのマッチング件数	1 件	年間 5 件
	山村部の暮らしに関する情報受信者数	2,513 件	増加
	経営耕地面積	—	維持

社会・分野	指標名	2023 年度実績	最終目標 (2025 年度)
循環型社会	市民一人当たりのごみ排出量 (家庭系ごみ+資源回収量)	590g	660 g
	市民一人当たりのごみ排出量	498g	520 g
	市民一人当たりのごみ排出量 (燃やすごみ)	468g	485 g
	最終処分量 (直接埋立量)	1,226t	1,527 t
	事業系可燃ごみ排出量	28,351t	35,000 t
	ごみ処理 1 t 当たりの発電量	445 k W h / t	440 k w h / t 以上
	廃棄物の不適正処理現場の数	99 か所	前年度から 3 か所以上減
	焼却施設の稼働率	60%	60%以上
安全・安心社会	環境の保全を推進する協定等で定めた 協定値を超過した事業所の数	1 件	0 件
	不良な生活環境の解消率	88%	50%
	適応策推進事業への延べ参加者数 (累計)	841 人	1,200 人
市民の環境行動力の向上と共働の分野	環境学習施設を利用した小学生の地球温暖化や生物多様性の理解度 (環境学習施設: 豊田市自然観察の森、豊田市環境学習施設 eco-T)	90.3%	80%
	とよた SDGs パートナーの連携事業数	21 件	毎年度 5 件以上
	都市部と山村部の暮らしに関する情報受信者数 ①WEB サイト閲覧数、②おいでんさんそんセンター Facebook いいね数	①25,040 件 ②2,513 件	①60,000 件 ②増加
	環境学習施設 eco-T におけるインタープリター登録数 (積み木キャラバン隊含む)	87 人	100 人体制を維持
	とよた SDGs ポイント新規加入者数	527 人	毎年度 500 人以上
	協定協議会 WEB サイト閲覧者数 (4 年間累計)	7,708 件	10,000 人 (2021-2024 年度)
	環境情報提供ツールの利用者数 分別アプリさんあ〜る	75,967 件	96,000 件
	SDG s 関連プロモーション事業数	10 件	毎年度 3 件以上